

- 代表者 会長・鎌田豊志氏 かまたとよし
- 主な活動 教育文化講演とコンサートの集い、根木内小・中学校の運動会駐輪場整理
- 活動場所 根木内小・中学校学区内
〒根木内中学校 ☎343-1268



根木内おやじの会



NPOサイエンスショー

- 代表者 会長・横田文男氏 よこたふみお
- 主な活動 キッズイノベーション「理科実験」
- 活動場所 馬橋北小学校、柿ノ木台小学校、六実中学校、常盤平中学校、第六中学校
〒NPOサイエンスショー事務局 ☎367-2663



学校と共に

市民の力で

子どもを支える



社会の移り変わりとともに、子どもを取り巻く環境も大きく変化しています。子どもが事故や犯罪に巻き込まれないための対策や学習意欲の向上のための仕組みづくりなどが求められています。そうした対策や仕組みづくりは、学校が主体となりながら地域と連携することで、より充実したものとなります。

特集では、学校の教育現場に関わる市民活動にスポットを当て、魅力的な教育環境づくりに貢献する取り組みを紹介します。

この特集で紹介する活動以外にも、学校教育を支援し、魅力を高める市民による取り組みが、市内では数多く行われています。

皆さんも、将来の松戸を担う地域子どもたちに目を向けてみませんか。



松飛台交番管内防犯協会

- 代表者 会長・井坂勤氏 いさかつとむ
- 主な活動 防犯パトロール、子どもの保護・誘導
- 活動場所 松飛台小学校・松飛台第二小学校通学路
〒松飛台小学校 ☎387-0494

第六中学校学習支援ボランティア



- 代表者 水津千絵氏 すいずちえ
- 主な活動 小テストの採点
- 活動場所 第六中学校
〒第六中学校 ☎343-1208

NPOサイエンスシャワー

休日の学校で高度な実験

身近なものを使って

「クーラーや冷蔵庫はなぜ冷えるの?」「ポンポン船が進む仕組みは?」
——。NPOサイエンスシャワーは、市内の小・中学校で大人でもすぐには答えられない疑問を子どもたちに分かりやすく教えています。

横田会長は「日本では理科離れが進んでいるといわれていますが、理科への興味を呼び起こして、国内だけでなく海外で活躍できる人を育てたい」と目標を定めています。

サイエンスシャワーの授業のポイントは、とにかく自分でやってみること。「どんな問いでも、身近なものを使って実験をすることで仕組みが分かってきます」と横田会長。小学校で行われた冷蔵庫の原理の実験では、児童たちはアルコール・冷却スプレー・風船を使って気化熱と膨張した空気が低温になることを学びました。



とにかく自分でやってみる!



海外で活躍できる人材育成

無限の可能性を引き出す

学年ごとにテーマは異なりますが、内容はいずれも高難度。保護者の一人は「なかなかこのレベルの授業は受けられない。少し難しくても子どもの刺激になればいい」と高く評価しています。他の保護者からも「理科への理解が飛躍的に進んだ」「普段の授業では味わえない経験を通じて理科に目覚めた」などの声があがっています。

もう一つの魅力は、学校の理科室で行われること。設備が整っている他、休日でも学校での実験であれば安心して参加できる利点があります。

「環境を整備すれば、子どもたちの無限の可能性を高めることができます(横田会長)」。これまでに、菌に迷路を解かせる実験でA4判80ページものレポートを書いた児童もいたそうです。アシスタントを務める千葉大学理学部化学科3年生の河原完全かわはらかんしさんも「自分が気付いていないことを、子どもたちが気付かせてくれる」と、子どもの潜在能力に驚いています。

次から次へ疑問が湧いてくる



第六中学校学習支援ボランティア

毎朝の小テストを採点

900人分を毎日

第六中学校では、5年前から計算力向上のための取り組みとして毎朝10～15分間、数学の小テストを実施しています。小テストとはいえ、毎日26クラス・900人以上の採点は、先生だけでは賅いきれません。そこで、保護者を中心とする学習支援ボランティアが、採点を手掛けることになりました。

小テストは、その日のうちに生徒に返却し、すぐに確認させなければ効果が薄れてしまいます。そのため、採点はその日の午前11時までに終わります。

ボランティアをまとめる水津さんは、「これまでできなかった子が、少しずつできるようになっていくことを実感できるのがうれしい」と、生徒の成長に触れられることにやりがいを感じています。

登録メンバーは約50人。日によって参加人数は異なりますが、毎日自主的に3～10人が採点を手掛けています。子どもが同中学校に通っているメンバーが多く、子どもの学力向上を身近で感じられることが喜びの一つになっています。



大量の答案用紙を一気に採点



学力が大幅に向上

その他にも「子どもが学校のことを話したがない年頃になったので、自分で学校のことを知ろうと思った」「子どもとの共通の話題ができた」と目的はさまざま。生徒から「いつも採点してくれてありがとう」とメッセージが添えられていることもあるそうです。

1日10～15分間でも、毎日繰り返せば3年間で大きな力がつきます。さらに、夏休み期間中の3日間、数学が苦手な生徒を対象にした授業を支援し、全体の学力底上げにつなげています。

この取り組みのおかげで、数学の学力テストは県平均を大きく上回るなど、生徒の数学の力は著しく向上しました。地道なボランティアのサポートが、子どもたちの成長に大きく役立っています。

作業は黙々



生徒の成長を身近に感じる

根木内おやじの会

子どもと学校の応援団

特殊な組織ではない

根木内おやじの会は、地域の父親を中心に4年前に結成されました。小・中学校で行われる運動会のサポート、安全パトロール、地域で行われるまつりの応援の他、東日本大震災後には放射線量が高くなったプールの清掃を手掛けるなど、さまざまなシーンで縁の下の力持ちとなって子どもと学校を支えています。

発足したきっかけは、学校で問題が発生した際、地域の中で頼りになる組織が必要になったこと。母親だけでなく、“親父の力”を学校や地域で感じられる組織となっています。

おやじの会は子どもと学校の頼もしい応援団ですが、初代会長の小林祐二副会長は「決して特殊な組織ではありません」と強調します。同会は、義務なし・資格なし・会費なしの「3ない」がモットーで、父親だけでなく、志さえ同じであれば、誰もが入会できます。「他の地域にも、このような取り組みが広がる芽は埋もれています（小林副会長）」と、他地域への広がり期待しています。



他地域への広がり期待

困ったときの頼れる存在

オヤジパワーで“四方よし”

学校からは「学校と地域、学校と保護者との接着剤になってくれています（井上四志郎根木内中学校校長）」と、その存在は欠かせないものとなっています。地域も「おやじの会による学校周辺パトロールなどのおかげで、安全面の効果を感じています（学区内町会役員）」と、高く評価しています。

会員の参加理由も「地元の人たちと集まり、楽しめる」「育った地域でお世話になった学校のお手伝いができる」など、思いはさまざま。子どものため、学校のため、地域のため、また、地域で活躍したいシルバー世代のためと、まさに“四方よし”の取り組みと言えます。「困ったことがあれば、オヤジパワーを使いこなしてほしい」と、小林副会長は地域に呼び掛けています。



縁の下の力持ち

松飛台交番管内防犯協会

児童の安全を毎朝見守る

地域一丸の体制構築

朝の通学路に「おはよう」「広がらないで端に寄って」という声が響きます。松飛台交番管内防犯協会は、登校日には毎朝7時から、松飛台小学校と松飛台第二小学校学区内の安全パトロールと見守りを行っています。

取り組みが始まったのは12年前。学区内に不審者が現れたことがきっかけでした。当時は4人しかいなかった防犯指導員も、今では約50人に増えました。毎朝のパトロールには、町会や自治会からの応援も加わり、地域一丸で子どもたちを守る体制が整っています。

両校合わせて約30人が、雨の日も雪の日も、登校日は毎朝通学路に立ちます。不審者情報が寄せられたときは、学校からの要請で昼から夕方にかけてパトロールに出ることも。井坂会長は「大雪などつらい日もありますが、大切なのは子どもに寄り添い、子どもの安全を守ることです」と言い切ります。



どんなときも子どもに寄り添う



あいさつで地域が明るく

事件防ぐ抑止力にも

参加しやすい環境づくり

こうした見守りによって得られる安心感の他にも、収穫があります。それは児童だけでなく、中学・高校生から大人まで、地域みんながあいさつをするようになったこと。「あいさつの輪が広がって、地域が明るくなりました」と、井坂会長は目を細めます。

メンバーは、60～70代の高齢者が中心。井坂会長は「潜在的に会員になってもらえそうな人は多い。参加しやすい環境を整えることが私たちの仕事です。活動する人が主役となる組織にしたい」と、今後も地域の人を呼び込むことを考えています。

両校学区内では、見守りを始めて以来、児童が巻き込まれる事故や事件は起きていないそうです。「見えない抑止効果が働いていると思います（井坂会長）」。地域全体で子どもの成長を支えています。

より魅力ある教育環境を目指して

家庭教育学級

保護者が学習する **場**づくり

市内の各小学校に開設している家庭教育学級は、保護者が子育てや家庭のことを学ぶ場です。学年の枠を超えて保護者同士が交流したり、話し合ったりします。

学校ごとに年間学習テーマを決め、1年を通して学習会を実施します。平成25年度は、全44小学校で延べ9,000人以上の保護者が、426の学習会に参加しました。

馬橋北小学校家庭教育学級（愛称・ましゅまろくらぶ）は、親子の交流も深めたいという保護者の要望に応じて、8月に夏休み親子クッキングを開催しました。



夏休み親子クッキングでは、実際に料理を作った他、食育についての講義も行われました。

参加者の1人は「ましゅまろくらぶで知り合えた人がたくさんいます。普段は話す機会が少ない別の学年の保護者と話すこともできます。何より、参加すると楽しいです」と笑顔で話してくれました。

働きに出る人が増え、全学習会に参加できない人もいます。ましゅまろくらぶ運営委員の高岸美詠子さんは「1年に1回だけでも、気にせず参加してほしいと声を掛けています」と、できるだけ多くの人が参加しやすい運営を心掛けています。

参加方法等の詳細は、生涯学習推進課または各学校の教頭先生へお問い合わせください。

幼児家庭教育学級・中学校家庭教育学級も行っています。

各家庭教育学級の学習内容は、生涯学習情報提供システム「まつどまなびいネット（<http://www.matsudo-s-edu.jp/>）」をご覧ください。

☎生涯学習推進課 ☎367-7810

松戸市PTA連絡協議会・奈賀綾子会長に聞く

■ 地域で子ども育てる意識を

— PTAはどのような組織でしょうか。

「一言で言えば、子どものために学校・保護者・地域をつなぐ組織です。学校の意向に沿いながら、保護者の要望を発信し、一緒になって学校を良くしていくことが役割です」

— 市内のPTA組織の現状は。

「市内公立小・中学校64校のうち47校にPTAがあり、連絡協議会に加入しています。任意団体のためPTAがない学校もありますが、学びの場をつくるなど、より魅力あるPTAの姿を発信していければと考えています」



■ 他団体との連携深めて情報共有

— 連絡協議会の活動の柱は。

「加入校が集まり、年6回の常任評議委員会を開いています。ここで各校の情報を共有し、学校間のつながりを強めている他、町会等さまざまな団体との関わりを深めて連携をとる体制を整えています。協力していただける団体が増えれば、問題の解決策も見いだしやすくなります」

— 子どもの成長環境は。

「少子化が進む現在、学校だけ、家庭だけで子どもを育てる時代ではなくなっています。今は地域全体で子どもたちを育てることが大切。地域の中の学校、家庭であるべきだと思います」

■ 助け合い頑張る姿、子どもにも

— 保護者の参加意識は。

「皆さん忙しく、敬遠されがちなのですが、やってみると自分の知らない自分が見えてくることもあります。私にはできないと断る人もいますが、助け合いながら一生懸命頑張るという姿勢は、子どもにとっても大切ではないでしょうか」

学生の力

東大大学院生が理科授業 手作り教材で興味引き出す

東京大学の大学院生による理科実験授業が、7月9日に馬橋小学校で行われました。生徒たちは光の屈折や摩擦、てこの原理の実験に真剣な表情で取り組み、お兄さん・お姉さんのアドバイスを得ながら試行錯誤を重ねていました。

松戸市での東大大学院生による授業は、昨年の新松戸南中学校・第三中学校に続いて3回目。小学生への授業を終えた同大学院2年生の高田修太さんは「興味を持ってもらえるように、テーマごとに手作り教材も用意しました。子どもたちには、整合性のとれた理科の知識を身に付けてほしいです」と、思いを語ってくれました。



広告

広告スペース